

血乳糜尿ノ一療法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード: 作成者: 笠岡, 芳名 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38181

ハ「ペロブレンテ」ノ如キモノナレバ、痕跡ノ微量ニ至ツテハ凡テノ鑛石又
沖積層ノ泥土之レヲ含マザルナシ一定ノ鑛泉「ファンゴ泥」(Fungo)海中ノ
泥土ノ如キ其稍著シキモノナリ、痕跡ノ微量ハ新ニ降りタル雨雪ノ中ニモ
含マルモノナレバ、斯ル微量ノ放射能働性ハ特別ノ意味アルモノニアラズ。
望ムラクハ「ラヂウム」メソトリウム」ノ如キ放射能働性アル物質
ノ應用ガ、醫士ノ手術刀ノ達セザル所ヲ補ヒテ治病學上ニ一新光明ヲ放ツ
ニ至ランコトナリ。

●血乳糜尿ノ一療法

Y. Sasaku: Über eine Behandlungsmethode
der Haematochylie.

笠岡芳名

驅微劑トシテ發見セラレタル「エールリヒ泰氏」ノ「サルワルサン」乃至「子オ・
サルワルサン」ガ獨リ「スピロヘーテ・パルリダ」ニ特效アルノミナラズ微毒
外ノ「スピリルローゼ」或ハ原蟲類ニ原因スル疾患ニ對シテモ亦奏效ヲ認ム
ルコトハ既ニ業ニ諸家ノ稱フル所タリ而シテ是等疾患ニ罹レル人體ニ之ヲ
應用シテ決シテ危險ナル副症狀ヲ來サザルコトモ亦等シク諸家ノ認識スル
所ニ屬ス則チ予ハ近時「フィラリア」ニ因ル血乳糜尿ニ對シテ本劑ヲ應用シ
テ寧ロ「スピロヘーテ・パルリダ」ニ對スルト同等或ハヨリ以上ニ奏效セル
實驗ト併セテ從來治療セル予ガ經驗ニ基キ最善ナル療法ト思惟スル所トナ
公ニセント欲ス

第一例 S. T. 三十五歳女 蒲燒屋女將 日本橋區住人(岐阜産)

大正二年九月二十五日初診

既往症 五年程前ヨリ春秋二季ニ於テ幾下定期性ニ兩側腹部殊ニ左側腹
部ヨリ下腹部臍下ニ達スル緊張性鈍痛ヲ覺エ尿意甚シク頻數ナラザルモ
上圍ノ際自ラ「コップ」ヲ携ヘテ尿ヲ檢スルニ著シク血色ヲ帶ビ且ツ時
シテ終尿ノ際ニハ血液凝固様物質ヲ洩スコトアリ則チ其都度某々醫等ノ
診療ヲ受ケ膀胱洗滌及ビ内服藥ニテ外來シ或ハ二ヶ月間入院シタルコト
アリテ一時大ニ輕快ヲ覺ユルモ根治スルニ至ラズ又數日前ヨリ右ノ症狀
ヲ起シ加フルニ頭痛、頭重、全身倦怠感アリ食氣大ニ振ハズ厭世ヲ念ヒ
寧ロ美死ヲ希フト訴ヘ家内爲メニ數々不和ナリト云フ月經正調ナルモ毎
度三日間位ニシテ極メテ少量ナリ曾テ某醫ノ診斷ニ「フィラリア」病ト云
ハレタルコトアリト告グ

現症 體格中等、榮養稍々不良、皮膚ハ一般ニ帶褐土黃色ニシテ貧血ノ
狀態ヲ呈シ眼瞼結膜モ亦著シク貧血シ顔貌ハ無慾狀態ニ似タリ觸診スル
ニ頸腺ハ左右兩側ニ各一箇宛銀杏大ノ腫脹ヲ認ムルモ自覺的ニモ他覺的
ニモ疼痛ナシ聽診スルニ肺ニハ異常ナキモ心臟ニハ著シク雜音ヲ聽收ス
體溫三十六度二分

尿ノ性状 兩盞試驗ニ於テ前後共一樣ニ血色ヲ帶アルモ前尿ハ微ニ淡紅
色ニシテ後尿ハ僅ニ紅色ヲ増セリ顯微鏡下ニ於テハ上皮粘液様物質ヤ、
襞色セル血球等ヲ認メ性ハ中性ニシテ蛋白ヲ含有ス花柳病ノ經過ナキモ
石女ナルヲ以テラツセルマン氏及ビパウエル氏反應ヲ試ムルニ共ニ陰性
ナリ

午後六時頃左耳垂部ヨリ血液ヲ採收シ顯微鏡下ニ於テ之ヲ檢スルニ果シテ「フィラリア・パンククロフチー」ノ仔蟲ヲ認メタリ

診斷 「フィラリア」ニ因ル血乳糜尿

療法 余ハ則チ患者及ビ其配偶者ニ諭シテ種々ノ療法ヲ説キタル上本症ノ根本的療法トシテハ「ネオ・サルワルサン」注射ヲ試ムルノ他ハ悉ク姑息的療法ナルベシト詢ヘ若シ熟考ノ上承諾スルナラバ特別無料ニテ行フベシト云ヘリ而シテ遂ニ患者等ノ承諾ヲ得タルヲ以テ翌二十六日午前十時「ネオ・サルワルサン」〇・六(〇・四)殺菌蒸餾食鹽水一〇〇〇ニ溶解シ)チ左肘靜脈ニ注射ス注射後約二十分時ハ顔面ニ微ニ潮紅ヲ呈シ稍々上氣スル感アリト訴ヘシモ直チニ該症狀去リ他ニ何等ノ副症狀ヲ認メズ翌朝ニ至リ頭痛及ビ頭重感ハ幾ト忘レタルガ如シト告グ血尿ヤ、減却セラルノ感アリ二十八日午前十時頃尿ヲ檢スルニ全ク血尿ヲ來サズシテ兩盞共ニ潤濁ス二十九日同三十日潤濁著シク減ズ十月一日午前十時頃尿ヲ檢スルニ全ク清澄透明トナリ身心共ニ爽快ニシテ入浴ヲ乞フ依テ之ヲ許可ス二日午後四時頃再ビ「ネオ・サルワルサン」〇・六(溶解同法)ヲ右肘靜脈ニ注射ス副症狀ヲ認メズ

爾來異常アラバ直チニ來レベシト告ゲシモ何等ノ異常ヲ訴ヘズ依テ十月二十五日午後來宅スルコトヲ約シ當日再ビ耳垂下部ヨリ血液ヲ採收シテ之ヲ檢スルニ「フィラリア・パンククロフチー」ノ仔蟲ヲ認メズ根治セシモノト認ム

備考 今日ニ至ルモ何等ノ症狀ヲ來サズ體軀肥滿シテ健康大ニ恢復シ予ニ向ツテ神ノ如ク感謝ノ意ヲ表シ居レリト傳聞ス

第二例 T. B. 二十六歲 商店員 日本橋區住人(伊勢産)

大正二年一月二十七日初診

既往症 患者曾テ著患ニ罹リシコト無シト雖モ幼時數ク癩ニ襲ハレ三年前ヨリハ時々發作性熱病ヲ患ヒシモ病名不明ニシテ爲メニ醫モ亦治療ニ困難セシト云フ性酒煙草等ヲ嗜マズ然レドモ時トシテ交際場裡ニ於テ稀ニ酒盃ヲ手ニスルコトアルモ其量一合ヲ過サズト云フ

本年一月十七日夜宴會後友人ニ誘ハレテ不潔ノ交接ヲ行ヒシニ二十二日ニ至リ尿道口ニ僅微ノ癢痒ヲ感ジタリ然レドモ放置シタルニ二十三日朝ニ至リ稍々劇シキ疼痛ヲ自覺シタリ則チ尿道口ヲ視ヒシニ濃漏ヲ認メタリ而シテ事務多忙ノ爲メ醫療ヲ受クルノ暇ヲ有セズ荏苒今日ニ及タルニ益々疼痛及ビ膿漏劇シキニ至レリ依テ來診シタリト稱ス

現症 視診スルニ體格中等、榮養稍々佳良ナルモ皮膚一般ニ蒼白色ニシテ貧血ノ狀態ヲ認ム觸診スルニ頸腺肘腺ハ共ニ腫脹ヲ認メズ只左鼠蹊部ニ銀杏大ノ腺腫脹二箇ヲ觸レ右鼠蹊部ニモ亦一箇ノ豌豆大腺腫脹ヲ觸ルルコトヲ得ルノミ聽診スルニ心臟ノ鼓動ヤ、弱ク時々雜音ヲ聽收スルコトアリ肺ニ於テハ左肺ニハ異常ヲ認メズ右肺上葉ニ於テ呼吸音僅ニ幽微ナルノ外異狀ヲ認メズ膝蓋腱反射稍々亢進、食慾便通共ニ普通ナリ尿ノ性状 兩盞試驗ニ於テ前尿ハ著シク潤濁スルモ後尿ハ幾ト清澄ナリ顯微鏡下ニ於テ第一器尿ヨリ多數ノ淋菌膿球及ビ上皮ヲ認ム性ハ弱酸性ニシテ微ニ蛋白ヲ有スルモ糖分ヲ含有セズ

診斷 急性淋菌性前部尿道炎 (同年一月二十七日)

右ノ診斷下ニ予ハ淋疾ノ治療ヲ始メタルニ凡ソ十七日ヲ經テ殆ト膿ノ排

出ヲ見ザルニ至リシモ二月十三日ニ至リ俄然尿ノ濁濁ヲ兩盃ニ來シ且ツ
 自覺症トシテ左腎臟部ニ手拳大ノ硬固ナル腫瘤ヲ來シ緊張感ヲ有スル疼
 痛ヲ伴フニ至レリコハ患者ノ朝起時ニ覺エシ症狀ニシテ次テ其夜ニ至リ
 熱感ヲ覺エ呼吸促迫冷汗淋漓タルモノアリ而シテ尿ヲ檢スルニ兩盃共ニ
 著シク血色ヲ呈スル排尿ヲ見ルニ至レリ又患者訴フル所ニ據レバ此熱感
 ハ數年前ヨリ時々來ル症狀ト相似タリト云フ此ノ熱感ハ毎ニ午後四時頃
 ヨリ始マリ十二時ニ達ストイフ又左陰囊内ニ雀卵大ノ硬結ヲ觸ル
 類症鑑別

- 一、尿道出血 一、外傷、結石、異物 二、急性尿道炎
 - 二、膀胱出血 一、結核 二、結石、異物 三、外傷 四、腫瘍、膀胱痔
 - 五、膀胱炎、六、攝護腺肥大 七、寄生蟲 八、婦人ニ在リ
- テハ妊娠期特ニ其末期ニ於テ

- 三、腎臟出血 一、結核 二、結石 三、外傷 四、腫瘍腎臟水腫 五、腎
- 孟炎腎臟炎 六、特發性腎出血 七、急性出血性腎臟炎
- 八、腎臟動脈瘤

四、全身病ニ因ル出血 一、血友病 二、壞血病 三、其他中毒症狀トシテ
 則チ予ハ檢尿スルニ著シク蛋白ヲ證明シ且ツ血球及ビ脂肪樣物質ヲ證明
 シタリ依テ左ノ診斷ヲ豫想シテ其研竅ニ勉メタリロツセルマン氏反應陰
 性

診斷 兼血乳糜尿症(同年二月十三日)
 原因及所在地 「フィラリア・パンクロフチー」ノ仔蟲「フィラリア・ザン
 グイニス・ホミニス・ノグツルナ」(マンソン氏)ノ爲ニ淋巴管ノ怒張或ハ

腎臟絲球ノ破潰ヲ來シテ起ルモノナリト村田學士及ビハーベルルヒ氏
 ハ云ヘリ而シテ如上ノ病源體ノ媒介者ハ蚊ニシテ其體中ニテ成蟲ニ成リ
 タル時更ニ何等カノ原因ニヨリテ水中ニ落チタルモノヲ知ラズシテ之ヲ
 飲用シ途ニ人體ニ入ルモノトス
 其所在地ハ熱帶地方ノ海岸或ハ大河岸ニ沿ヒテ存在シ或ハ稀ニ地方性ニ
 來ルモノニシテ本邦ニ於テハ九州及ビ其附近ノ諸島ニ尤モ多ク其他ハ稀
 ニ山梨縣、静岡縣、青森縣等ニ存在スルトイフモ予ノ例ハ共ニ東京ニシ
 テ其產地ハ岐阜及ビ伊勢ニ屬ス
 予ハ血液檢査ニ於テ一、血球二、血液中「フィラリア」仔蟲ノ檢査三、膀
 胱鏡檢査ヲ知ルモ就中血液中「フィラリア」仔蟲ノ發見ニ據リテ本症タル
 コトヲ發見シタリ

- 療法 一、安靜 二、食餌攝生(脂肪少ナキ蛋白質ノミヲ與フ) 三、殺

蟲劑
 內服ニハ「ピクリン」酸加里、「メチレン」青、「テレピン」油、白檀油、
 硼酸、「チモール」等而シテ予ハ朝夕一粒宛「スチプチン」錠ヲ與ヘ尙ホ
 沃度加里一日乃至二瓦ヲ與ヘ六日ニシテ幾ド血尿ヲ認メズ八日ニシテ
 幾ド濁濁ヲ認メザリシモ化學檢査ニ於テ尙ホ蛋白及ビ乳糜ヲ證明スルヲ
 以テ錠劑ヲ止メ沃度加里ノミヲ持長スルコト約一箇月半ニシテ快癒シタ
 リ
 此他膀胱洗滌ニハ硝酸銀ノ溶液及ビ硼酸水等アルモ奏效確實ナラズト云
 ヘリ予ハ未ダ此療法ヲ試ミズ
 病理 「フィラリア」幼蟲ハ下腹淋巴管ニ血栓 Phronlose ヲ起シ胸管其

他ニ淋巴液ノ鬱滯ヲ來シテ腎臟血管ノ鬱血ヲ喚ビ而シテ細尿管ト細淋巴管トヲ交通シテ爰ニ乳糜尿ヲ發生スルモノナリ

本症ニ對スル沃度加里ノ作用ハ血液ノ粘度ヲ減シ新陳代謝作用ヲ高メ血

栓及ビ檢塞ヲ除キ淋巴ノ鬱滯ヲ消散セシムルニ因ルモノト斷定セラレ

曾テ長友田中博士ノ報告十例ニ就テ左側六、右側二、兩側一、兩側清澄

ナル者一ナリシガ予ノ例ニ於テハ二例共ニ左側ナリシハ大ニ興味アルコ

ト、思ヒ尙ホ研究ノ餘地ヲ存スベシ。

●鬼胎分娩ニ就テ

在長岡 諸橋林太郎 (四十年卒業)

一、肉胎 Fleischmole.

卵子ノ疾病及ビ異常ノ狀態例令胎盤ニ異常アリテ胎兒ヲ養フ能ハザルモノ

卵膜臍帶ノ異常ニ依リ血行障害ノトキ、胎兒ノ畸形及ビ卵子ト子宮トノ間

ニ出血等ノ場合ニ依リ胎兒ノ死亡ヲ來タストキハ普通直チニ分娩ヲ來スト

雖モ時トシテ永ク子宮内ニ止マリ種々ノ變化ヲ起ストアリ即チ妊娠第一ケ

月ニ於テ胎兒死亡スレバ吸收セラレ卵ノ排出ニ當リ卵膜羊水ノミニシテ胎

兒ハ其ノ痕跡ヲモ認メザルコトアリ反之死亡後直ニ卵子排出セラレザルハ

屢々卵膜内ニ出血ヲ起シ新鮮ナル血液層ヲ卵中ニ作ル爲メニ卵ハ外觀上凝

血ノ一塊或ハ生肉ノ一片ノ如シ故ニ之ヲ血胎 (Bloodmole) 又ハ肉胎 (Fleishmole)

ト稱ス今凝血又ハ肉塊ヲ切開シテ見スレバ内層即チ中心ハ滑澤ナル羊膜ニ被

マリ胎兒ハ痕跡ヲモ認メ難シ而シテ鏡顯上新鮮ナル血液ト己ニ生シタル肉胎トノ間ニ萎縮セル絨毛及ビ脱落膜細胞ノ遺殘ヲ見ルノミ

余ノ實驗例

患者 長岡市 教員 T. S 生 參拾貳年

既往症 父ハ貳拾年前「チフス」ニテ母ハ五年前腦ノ疾患ニテ死ス兄弟三人

姉妹五人共ニ健全患者ハ第七子ニシテ幼時頗ル強健參才ノ時種痘八才ノ時

麻疹ヲ經過シ拾貳才ノ時「チフス」ニ犯サレシモ一ヶ月ニシテ治ス貳拾八才

ノ時背部ニ「フロンケル」ヲ得タリ月華ハ拾六才ニシテ來潮シ經過不正ニシ

テ八日間疼痛ヲシ貳拾才ノ時結婚初産貳拾四才一昨年六月第四回分娩月華

ハ一年ニ二乃至三回ニシテ昨年六月拾日ヨリ八日間ニシテ終經トス

現症 昨年七月末ヨリ下腹部少々大キクナリ即チ異物ノ感及ビ冷感アリテ

惡心ヲ覺ユ

八月初 嘔吐一回

九月 子宮ハ可ナリ確カニ大キクナリシ感アリ

拾月 中旬ヨリ乳汁分泌

全 貳拾五日 少許ノ白帶下アリ

全 參拾日 少許ノ赤帶下アリ疼痛ナシ

拾壹月 拾日 子宮ハ反テ少々小サクナリシ感アリ

全 貳拾日 ドクトル S 生ノ診ヲ受ク子宮底臍下三・五橫指程

全 貳拾六日 醫士 N 生ノ診ヲ受ク

全 貳拾八日 全 Y 生ノ診ヲ受ク

全 參拾日 全 W 生ノ診ヲ受ク 何レモ確定セズ